

**1**

解答解説のページへ

空間のベクトル  $\overrightarrow{OA} = (1, 0, 0)$ ,  $\overrightarrow{OB} = (a, b, 0)$ ,  $\overrightarrow{OC}$  が, 条件

$$|\overrightarrow{OB}| = |\overrightarrow{OC}| = 1, \overrightarrow{OA} \cdot \overrightarrow{OB} = \frac{1}{3}, \overrightarrow{OA} \cdot \overrightarrow{OC} = \frac{1}{2}, \overrightarrow{OB} \cdot \overrightarrow{OC} = \frac{5}{6}$$

を満たしているとする。ただし,  $a, b$  は正の数とする。

- (1)  $a, b$  の値を求めよ。
- (2) 三角形 OAB の面積  $S$  を求めよ。
- (3) 四面体 OABC の体積  $V$  を求めよ。

**2**

解答解説のページへ

放物線  $y = ax^2$  ( $a > 0$ ) と円  $(x-b)^2 + (y-1)^2 = 1$  ( $b > 0$ ) が、点  $P(p, q)$  で接しているとする。ただし、 $0 < p < b$  とする。この円の中心  $Q$  から  $x$  軸に下ろした垂線と  $x$  軸との交点を  $R$  としたとき、 $\angle PQR = 120^\circ$  であるとする。ここで、放物線と円が点  $P$  で接するとは、 $P$  が放物線と円の共有点であり、かつ点  $P$  における放物線の接線と点  $P$  における円の接線が一致することである。

- (1)  $a, b$  の値を求めよ。
- (2) 点  $P$  と点  $R$  を結ぶ短い方の弧と  $x$  軸、および放物線で囲まれた部分の面積を求めよ。

**3**

解答解説のページへ

さいころを投げると、1 から 6 までの整数の目が等しい確率で出るとする。さいころを  $n$  回 ( $n=1, 2, 3, \dots$ ) 投げるとき、出る目の積の一の位が  $j$  ( $j=0, 1, 2, \dots, 9$ ) となる確率を  $p_n(j)$  とする。

- (1)  $p_2(0)$ ,  $p_2(1)$ ,  $p_2(2)$  を求めよ。
- (2)  $p_{n+1}(1)$  を,  $p_n(1)$  と  $p_n(7)$  を用いて表せ。
- (3)  $p_n(1)+p_n(3)+p_n(7)+p_n(9)$  を求めよ。

1

問題のページへ

(1)  $\vec{OA} = (1, 0, 0)$ ,  $\vec{OB} = (a, b, 0)$  について,  $|\vec{OB}| = 1$ ,  $\vec{OA} \cdot \vec{OB} = \frac{1}{3}$  より,

$$a^2 + b^2 = 1 \cdots \cdots \textcircled{1}, \quad a = \frac{1}{3} \cdots \cdots \textcircled{2}$$

$$\textcircled{1}\textcircled{2} \text{より, } b^2 = \frac{8}{9} \text{となり, } b > 0 \text{ から } b = \frac{2\sqrt{2}}{3}$$

(2)  $\triangle OAB$  の面積  $S$  は,

$$S = \frac{1}{2} \sqrt{|\vec{OA}|^2 |\vec{OB}|^2 - (\vec{OA} \cdot \vec{OB})^2} = \frac{1}{2} \sqrt{1^2 \times 1^2 - \left(\frac{1}{3}\right)^2} = \frac{\sqrt{2}}{3}$$

(3)  $\vec{OC} = (p, q, r)$  とおくと,  $|\vec{OC}| = 1$ ,  $\vec{OA} \cdot \vec{OC} = \frac{1}{2}$ ,  $\vec{OB} \cdot \vec{OC} = \frac{5}{6}$  より,

$$p^2 + q^2 + r^2 = 1 \cdots \cdots \textcircled{3}, \quad p = \frac{1}{2} \cdots \cdots \textcircled{4}, \quad \frac{1}{3}p + \frac{2\sqrt{2}}{3}q = \frac{5}{6} \cdots \cdots \textcircled{5}$$

$$\textcircled{4}\textcircled{5} \text{より, } \frac{2\sqrt{2}}{3}q = \frac{2}{3}, \quad q = \frac{1}{\sqrt{2}}$$

$$\textcircled{3} \text{に代入して, } r^2 = \frac{1}{4}, \quad r = \pm \frac{1}{2}$$

すると, 四面体  $OABC$  の体積  $V$  は,  $\triangle OAB$  が  $xy$  平面上にあることより,

$$V = \frac{1}{3} S \cdot |r| = \frac{\sqrt{2}}{18}$$

### [解説]

空間ベクトルの基本問題です。底面が  $xy$  平面上にあるため, 構図は単純です。

2

問題のページへ

(1) まず, 条件より,  $|\overrightarrow{PQ}|=1$ ,  $\angle PQR=120^\circ$  より,

$$\overrightarrow{PQ} = \frac{1}{2}(\sqrt{3}, -1)$$

さて,  $\overrightarrow{OQ} = \overrightarrow{OP} + \overrightarrow{PQ}$  より,

$$(b, 1) = (p, ap^2) + \frac{1}{2}(\sqrt{3}, -1)$$

$$b = p + \frac{\sqrt{3}}{2} \cdots \cdots \textcircled{1}, \quad 1 = ap^2 - \frac{1}{2} \cdots \cdots \textcircled{2}$$

また,  $y = ax^2$  より  $y' = 2ax$  となり,  $P(p, ap^2)$  における接線方向ベクトル  $\vec{u}$  は,  $\vec{u} = (1, 2ap)$  と表せ,  $\vec{u} \cdot \overrightarrow{PQ} = 0$  から,

$$\sqrt{3} - 2ap = 0 \cdots \cdots \textcircled{3}$$

$$\textcircled{2}\textcircled{3}\text{より}, \quad \frac{3}{2} = \frac{\sqrt{3}}{2}p, \quad p = \sqrt{3} \text{ となり}, \quad a = \frac{\sqrt{3}}{2p} = \frac{1}{2}$$

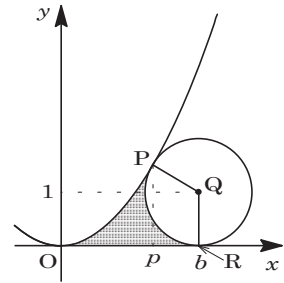
$$\textcircled{1}\text{に代入して}, \quad b = \sqrt{3} + \frac{\sqrt{3}}{2} = \frac{3}{2}\sqrt{3}$$

(2) (1)より, 放物線  $y = \frac{1}{2}x^2$ ,  $P(\sqrt{3}, \frac{3}{2})$ ,  $Q(\frac{3}{2}\sqrt{3}, 1)$ ,  $R(\frac{3}{2}\sqrt{3}, 0)$  となり, 求める網点部の面積  $S$  は,

$$\begin{aligned} S &= \int_0^{\sqrt{3}} \frac{1}{2}x^2 dx + \frac{1}{2}\left(\frac{3}{2}+1\right) \cdot \left(\frac{3}{2}\sqrt{3} - \sqrt{3}\right) - \pi \cdot 1^2 \cdot \frac{120}{360} \\ &= \left[\frac{1}{6}x^3\right]_0^{\sqrt{3}} + \frac{5}{8}\sqrt{3} - \frac{1}{3}\pi = \frac{9}{8}\sqrt{3} - \frac{1}{3}\pi \end{aligned}$$

## [解説]

(1)では, 文字の値を決定するのに, いろいろな方針が考えられます。上の解は, 与えられた条件から決定している  $\overrightarrow{PQ}$  に注目し, そこを出発点として計算を進めたものです。



**3**

問題のページへ

- (1) さいころを 2 回投げるとき、出る目と出る目の積の一の位の対応をまとめると、右表のようになる。

1回 \ 2回	1	2	3	4	5	6
1	1	2	3	4	5	6
2	2	4	6	8	0	2
3	3	6	9	2	5	8
4	4	8	2	6	0	4
5	5	0	5	0	5	0
6	6	2	8	4	0	6

これより、 $p_2(0) = \frac{6}{36} = \frac{1}{6}$ ,  $p_2(1) = \frac{1}{36}$ ,

$p_2(2) = \frac{6}{36} = \frac{1}{6}$  である。

- (2) さいころを  $n+1$  回投げるとき、出る目の積の一の位が 1 となるのは、次の 2 つの場合である。

(i)  $n$  回までの積の一の位が 1 で、 $n+1$  回目が 1 のとき

(ii)  $n$  回までの積の一の位が 7 で、 $n+1$  回目が 3 のとき

(i)(ii)より、 $p_{n+1}(1) = \frac{1}{6} p_n(1) + \frac{1}{6} p_n(7) \dots\dots\dots \textcircled{1}$

- (3)  $n+1$  回投げるとき、出る目の積の一の位が 3 となるのは、 $n$  回までの積の一の位が 1 で  $n+1$  回目が 3、 $n$  回までの積の一の位が 3 で  $n+1$  回目が 1 のときであり、

$p_{n+1}(3) = \frac{1}{6} p_n(1) + \frac{1}{6} p_n(3) \dots\dots\dots \textcircled{2}$

$n+1$  回投げるとき、出る目の積の一の位が 7 となるのは、 $n$  回までの積の一の位が 7 で  $n+1$  回目が 1、 $n$  回までの積の一の位が 9 で  $n+1$  回目が 3 のときであり、

$p_{n+1}(7) = \frac{1}{6} p_n(7) + \frac{1}{6} p_n(9) \dots\dots\dots \textcircled{3}$

$n+1$  回投げるとき、出る目の積の一の位が 9 となるのは、 $n$  回までの積の一の位が 3 で  $n+1$  回目が 3、 $n$  回までの積の一の位が 9 で  $n+1$  回目が 1 のときであり、

$p_{n+1}(9) = \frac{1}{6} p_n(3) + \frac{1}{6} p_n(9) \dots\dots\dots \textcircled{4}$

①+②+③+④より、

$p_{n+1}(1) + p_{n+1}(3) + p_{n+1}(7) + p_{n+1}(9) = \frac{1}{3} \{ p_n(1) + p_n(3) + p_n(7) + p_n(9) \}$

ここで、 $p_1(1) = p_1(3) = \frac{1}{6}$ ,  $p_1(7) = p_1(9) = 0$  より、

$p_n(1) + p_n(3) + p_n(7) + p_n(9) = \left(\frac{1}{6} + \frac{1}{6} + 0 + 0\right) \left(\frac{1}{3}\right)^{n-1} = \left(\frac{1}{3}\right)^n$

**[解 説]**

センター試験に向かうときと同様に、まず一覧表を作成した方がミスが少なくなります。なお、(3)は(2)と同様に考えた解法です。